

がんばろう 南三陸町

復興第 4 0 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝

— 防災対策庁舎「県有化」の動き(4月) ⑥ —

南三陸町防災対策庁舎の「保存」「解体」
そして「県有化」に対する

パブリックコメント(意見公募)

町で初めての試み実施

— 賛成意見 —

●宮城からの南三陸防災対策庁舎の県有化に賛成します。(略) ●御遺族の方々の気持ちを考えると複雑ですが、県有化には賛成です。 ●防災対策庁舎は保存すべきである。とりえず今回の有識者会議の意見を踏まえ 20 年間県有化し時間をかけ最終は保存とすること。 ●宮城県の提案の 1 と 2 について南三陸町が受け入れることに賛成します(略) ●県有化に賛成します。解体はどんな時でも、すぐに出来ると思う。(略) ●今現在は震災が起きた事は知っていますが 100 年、200 年後の事を考えると後生にのこしてほしいです。 ●県有化に賛成です。

— 反対意見 —

●県有化は毅然と拒むべき。(略) ●震災後、何度也有識者皆様話合いがあったようですが、月日の流れと共に町の姿が日々変わって行きさびれた防災対策庁舎を眺めるのが悲しい想いですので、取り壊して新しく高台に移した方がいいと思います。(略) ●南三陸町防災対策庁舎の保存「県有化」に反対します。 ●早く解体してほしい。

— どちらにも当てはまる意見 —

●20 年間は県に管理していただき、その後は解体した方がいいと思います。
(掲載は町ホームページより、ランダムに 1・51・101……551 の内容を抜粋)

意見公募の実施期間

平成 27 年 4 月 1 日から 5 月 8 日

意見公募の実施結果

意見提出件数	6 6 4 件	①+②=100%
提出要件を満たした件数	5 8 8 件	88.6%…①
・賛成の意見	3 5 0 件	59.5%
・反対の意見	2 0 6 件	35.0%
・その他の意見	3 2 件	5.5%
提出要件を満たしていない件数	7 6 件	11.4%…②

◎「防災庁舎県有化」の是非について

町民意見受付開始(1日)

南三陸町では 1 日発行の町広報誌と一緒に、町内・登米市の仮設・仙台などのみなし仮設の南三陸町に住所がある約 4300 世帯に配布送付をした。受付は 4 月 1 日から締め切りは 14 日。今月中をめどに県有化受け入れの是非を判断する。

意見を述べる場合には、同附の意見提出用紙に住所・氏名・連絡先を記入し、返信用封筒で提出する。ファックス・メールでも受け付ける。

震災遺構の問題点

気仙沼向洋高校の遺構保存で 1 千万円の毎年の赤字と想定が出された。遺構の保存整備に約 7.9 億～ 9.3 億円が見込まれ、維持費で 4200 万円前後が掛り、入館料として(5.1 万人想定として)大人 600 円子供 300 円で収益を物販と合わせると約 2700 万円と算出し、1 千万円の赤字とコンサルタント会社は清算した。

創立 90 周年から 100 周年を迎えましょう



「友好の輪」を守って(山内副会長)

7 月 14 日(金)午後 6 時から志津川高校同窓会が「南三陸プラザ」で開催された。小畑会長・役員らの同窓会参加への活動が実を結び、来賓・会員で 80 名余りの卒業生がしばらくぶりの再会を楽しんだ。

入谷出身の山内松吾校長の挨拶では、この日の準々決勝「育英高校」との対戦に生徒一丸となった野球応援の実施や、野球部の活躍を讃え、監督・顧問の指導に感謝の言葉を述べた。母校への就任は巡られた運を感じると話す。生徒にも上を向き多くの事に挑戦して欲しいとのメッセージを、この場を通し送った。

これからの自己の抱負と前置きし、「皆さんのおかげ様でこんな素晴らしい学校になった」と、卒業生と地域の支援があってこそと話す。震災を乗り越え、震災に負けない生徒の精神力を養った。県立ではなく「おらほの学校」として、亡くなった地元の同級生 3 人の分まで頑張りたいと結んだ。

佐藤町長の祝辞では、夏の高校野球宮城大会の活躍にふれ「昭和 50 年の流れに似ている」と今回の野球部快進撃を振り返った。また、志高生の「モアイ化計画」の活動による町への寄付金が、以前の 450 万円と今回 200 万円で 650 万円に達し、それに関西のテレビ局「毎日放送」が 200 万円を寄贈していただき、志高生の願い「巡回バス」の購入ができる金額が集まったと伝えた。是非、バスのネーミングと車体のデザインをとこの場で志高生にお願いしたいと語った。

今回は同窓会小畑会長の同級生から、参加された方々に新潟の名酒が贈られた。戸倉折立出身の西條盛昭さんで、新潟市でビルのメンテナンス及び清掃などの会社「株式会社ウエスト」を経営され、新潟から東北・関東圏を拠点に 1000 人の従業員をかかえる会社を立ち上げた。「故郷を離れて数十年、故郷以外の生活が長いにも関わらず、記憶の大半が故郷を思い出します。」と同窓会に寄稿を寄せた。

記念撮影は全員がカメラのフレームに収まった。集まった中には志高女子の姿もあり、かつこよかった制服に時代の経過を感じた。



大阪府印刷組合東大阪支部 3 度目の来町

宮城県印刷組合の仙台での「機材展」に合せ、ピーチ航空を利用し今年も 3 名の社長さんが東大阪から来町した。

常宿として歌津のコクボ荘への宿泊と、奥さんとの会話、海の幸の料理を楽しみに来てくれた。今回は本吉・気仙沼支部から 3 社の参加を得て「交流会」を催す事もできた。

観光支援旅行とて、「霊峰田東山」に登り、歌津地区の駅裏高台にできた「慰霊の丘」の慰霊碑に手を合わせた。先月の 24 日には観音様も丘に建立され、伊里前商店街からも場所がはっきり判る状況となった。そして「未希の家」「防災庁舎」にも手を合わせ、南三陸町からのお土産は「南三陸の銀鮭」を 10 本も関西近隣の知人達に送った。東大阪のお客様も「ブランド銀ザケは美味しい」と太鼓判を押してくれた。「また来ます」との言葉と支援・交流を今後も続けていくと言ってくれた。



仮設訪問ボランティア「愛の福袋」来町

「旧民宿向」さんが大震災大津波で流出し、家族で広島に避難を余儀なくされた。「民宿明神崎荘」として新たな再出発を、袖浜地区の高台への再オープンする支援を、広島在住の NPO 法人さんがしてくれた。その NPO 法人さんが団体で、南三陸町の袖浜民宿「明神崎荘」の支援に、中国地方から北九州・関東など「WFWP 東日本被災地支援」で 30 名余りが来てくれ、23 日・24 日の日程で仮設訪問などのボランティア活動を行い、被災地視察として気仙沼・陸前高田を廻る「愛の福袋」活動を実施した。

代表の山下さんとの打ち合わせで、大津波の被害状況よりも会員の皆さんには被災地の「つながり」「絆」の維持に何が必要かを話して下さいと言われた。無理をせず末長い見守りとしての来町をお願いした。物心的な支援から人と人の交流がこれからは大切です、と伝えた。

「また来ます」との握手に、皆さんの温もりが嬉しかった。

やきとり なっちゃん

(コメリ様となり) ご来店をお待ちしてま

100K のジャガイモ長野県飯島町から届く

震災二年目の平成 24 年から始まった長野県飯島町の宮澤さんからの初夏の農産品が届いた。4 年間に及ぶ初夏のジャガイモと晩秋の長ネギの物資支援が続いている。

今回は初夏の 10K 入りのジャガイモ 10 袋が届き、歌津・入谷・志津川・登米市の仮設 4 カ所に配布をした。全ての仮設自治会長さんは「仮設の皆さんに 1 コのジャガイモでも嬉しいとの声を聴きます」と感謝の声と言葉をいただいた。

仮設生活者は地区の防集移転が進んではいるものの、未だに被災して、仮設暮らしを強いられている仮設生活者は 7 割もいる。



未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成27年 (2015年)
～ 地元報道より ～

4月の出来事

◇自治体合併や震災対策に尽力した遠藤健治副町長(66)の退任式があり、津波で犠牲となった職員に触れ、彼らの思いに十分応えきれなかったと声を詰まらせた。48年間の公務を振り返り、常に前をそして上を向いて歩いてほしいと語った。

◇地方経済の活性化の交付金を活用し、県内トップの4割増しプレミアム商品券が6月から販売を開始する。南三陸町長は他の自治体とのメリットとなるよう4割増しにしたと話す。加盟店は約200事業所を見込み、観光客の皆さんにも購入していただき、消費喚起につなげたい。

◇派遣職員の辞令交付は、新年度を含め111人に上る。全国50自治体が応援を受け、今年5自治体5人が増えた。現時点で職員不足の心配はないと行政は話す。

◇南三陸町の新病院を視察に「台湾議員団」の10人が来町。台湾赤十字組織が病院建設に22億2千万円を震災支援している。

◇「法テラス(南三陸)」が本年度の継続を決定した。ベイサイドアリーナの裏に設置され、震災直後から、被災者の「二重ローン」や「相続」などの、法律相談所として町民の相談を受け入れ重宝されていた。参議員会議で仮設生活者の延長を踏まえ、30年3月末まで延長される法改正特別法が成立した。

◆気仙沼市立大谷幼稚園・小学校に通う児童の「送迎バス」の運行が、危機に立っている。今後の保護者の支払う運行料金が6割増しになる見込みで、行政に助成を求める声があがっている。最大の原因は少子化だと言う。

気仙沼市の仮設商店街は共同店舗で本格再生へ！

南町紫市場は31店で「気仙沼内湾商店街協会」を組織。南町地区内に21店、魚町地区に7店で新店舗を形成する計画。総事業費約16億円のうち4分の3を国の補助で、残りは出店者の賃料で負担する。1坪5千円で10坪5万円、共同管理費1万円、さらに50万円の出資金が必要となる。

自己負担は現在の10倍となる。当初25年12月時点では42店舗があったが高齢化・資金繰り、後継者不足があり31店に減少した。屋台村は移転先がなく閉店予定。仮設商店街のトップを切った復興屋台村「気仙沼横丁」は28年10月25日の入居期限となっている。

◇南三陸町の10月の合併10周年記念に合せ、事業の提案を募集する。イベントなどにも補助金をだす。予算はふるさと納税をあてる。「合併10周年夢と希望かなえる事業」と銘打ち記念事業を開催する。

◇南三陸町は志津川市街地に架かる「港橋」のデザインを国内の若手建築家から募集する。最優秀案には賞金150万円が贈られる。

◇志津川地区の東工区の災害公営住宅が16日に着工安全祈願祭を行う。町内には8カ所計738戸を整備する。志津川地区が494戸と全体の7割を占め、新病院のとなりの東工区は、来年6月の完成を目指し、残る建設も順次入る。

◇南三陸町27年度一般会計当初予算に総額522億円を計上、25年度の664億円に次ぐ予算となった。本年度末には防災集団移転の歌津柝沢(59戸)、歌津中学校上(56戸)、戸倉(95戸)の完成予定としている。志津川地区の東・中央・西の3地区に62億円が充てられる。

◆気仙沼市の超少子化時代は震災年度を除くと、出生が370人前後・死亡850～890人となった。震災年度の22年度は出生450人・死亡1460人で、23年度は出生377人で死亡が1705人だった。

た。出生は昭和40年代の第2次ベビーブームには年間千人の出生があった。

◇南三陸町の水産業の再建復興に欠かせない志津川魚市場が11億円でハード面の工事が年内に完成し来年1月の初競りから運用となる。シロサケのふ化場も年内の完成を予定している。魚市場の水揚げ高は20億円を目指す。

◇南三陸町のボランティアセンター大型テントは、延べ14万人を迎える受け皿となったが、4月9日から解体が始まった。テントは今後、気仙沼市内に子供たちの野球練習場として活用される。

◇防災庁舎の「県有化」での保存か解体について町は、4300世帯に意見提出書類を送り、パブリックコメント(意見公募)を求めた。10日間で150件の意見が行政にすでに届いている。

◇南三陸町の震災遺構保存問題で、町民のパブリックコメント(意見公募)が14日に締め切られ、約500件が集まった。

◇志津川地区町づくり協議会は、持続可能なバス運行をと、町に提案書を渡した。公共交通は「住まい」「なりわい」「自然」を紡ぐ重要な軸である。①高齢者や障害者への配慮 ②待合所充実など柔軟な運行システムの構築 ③持続可能な交通サービスなど5項目を盛り込んだ。

◇日本カトリック・ボランティア連絡協議会は、入谷「いりやど」を会場に全国の会員90名が集まり、南三陸町で被災者から体験を聞いた。

戸倉農漁家レストラン「慶明丸」が第24回食アミニティコンテストで農林水産大臣賞に輝いた！

郷土料理の継承や開発を通して地域づくりに貢献した団体を表彰する。去る11年にオープンしたものの、大震災でレストランは全壊し、25年4月に全国より支援を受け再開した。旬と素材にこだわり、郷土料理を全国に発信している。

◆気仙沼署管内の飲酒運転の検挙者数が9人となり、昨年の10人にせまる人数となっている。飲酒運転は重大事故につながる事もあり、夜間取締りを強化している。

◆気仙沼市の「気仙沼観光コンベンション協力」が24年10月に設立され、「震災復興語り部ガイド」の26年の実績が報告された。26年度は633団体で1万5929人の利用があった。人数は減ったが件数は増加している。原則10人以上でガイドを受け付けている。

◇志津川漁港の防潮堤工事が本格化している。海拔8.7mの防潮堤が393.5mで大森地区に整備されている。進捗率は57%と年度内の完成を目指している。

◆気仙沼地方創生策として「2割増し商品券」を7月発売のため、5月から加盟店を募集する。千円12枚つづりを1万円で販売し、1万5千セットを準備する。1世帯18歳以上の3人までで、1人上限5万円まで販売する。

◇三陸道の南三陸町と気仙沼市間の調査・設計・用地買収・改良工事に27年度予算として250億円を仙台河川国道事務所が示した。登米市米谷から志津川小森までの運用開始を年度内にと予定している。

◇国土地理院の発表によると、4年間で志津川29cm 気仙沼21cmの地震による地盤の隆起が続いている。水平移動は南東方向へ4～5mが更に1m移動していると発表した。

◇戸倉小学校は16日戸倉団地内に建設中の新校舎上棟式を行った。進捗率は40%で8月末の完成に向っている。68名の全校児童は、併設した志小からの引越し準備を本格化している。

◆気仙沼・本吉の震災復旧の「ほ場整備」が人手・資材不足が影響し遅れている。半分が本年度の「田植え」に間に合わない。

◇金華山沖で17日午後、歌津の最知進市船長の「幸漁丸」が転覆し、一人が死亡し、2人不明で宮城海上保安部と加盟漁協の漁船が捜索が続けている。

◇元歌津町長の牧野駿氏が伊里前市街地を望む駅裏高台に「慰霊碑を建立」した。歌津地区の全犠牲者を刻んでいる。29日の入魂式には遺族以外の方々の参列もと呼び掛けている。

◆気仙沼市は創造的産業復興開拓に最大で1千万円を補助する(補助割合は事業費の4分の3)。

◆気仙沼市の人口減少による地方交付税が年間「9億円減額」と試算した。

◇20日「第2幸漁丸」が志津川漁港にえい航され、事故原因の調査を開始した。

◇「南三陸町地域観光復興協議会」の加盟する70店舗で、販路確保への各店コラボによる「自慢の品セット」を販売している。すでにネットで販売や南三陸ホテル観洋の売店で販売している。第1弾は10店舗が参加し、20品目のセットで販売している。

「東北大学メディカルバンク機構」は、大震災後の気仙沼市・本吉地方の心的外傷後ストレス反応や抑うつ症が出ている住民を調査した。南三陸町の男性は「8.1%」女性が「3.6%」と結果が出た。県平均で男性の3.0%から比べても高い数字に。依然として「心の病」が多い事がわかった。津波で肉親を亡くしたり仮設暮らしの環境で悩みを抱え、飲酒・喫煙が増えた人たちもいる。

◆全国的に増加の一途をたどる「振り込め詐欺」の被害防止講座が気仙沼の新月公民館であり、「急がず、慌てず、相談を」と呼び掛けた。

◆気仙沼本吉病院(齋藤稔哲院長)に常勤医2人が加わった。共に内科医の杉下副院長(49)北海道出身、浅山医師(26)仙台市出身で、派遣や研修が縁で着任した。今後は3人体制で地域医療に取り組む。

◇BRTの気仙沼線が柳津から前谷地まで延伸する事をJR東日本が決定した。6月27日のダイヤ改正により仙台へのアクセスがスムーズになると、利用者からは喜ばれている。

◇歌津「伊里前商店街」に6月から、郵便局のATM車が設置される。

◆気仙沼市への「教育旅行」が過去最高の87校が来市した。震災を通して防災意識や生きる力を学ぶためと言う。「通過型」が多く今後は「体験・宿泊型」を増やす事が急務としている。

◆南三陸町の防集団地は志津川を除き4割越え着工している。町の防集事業は20地区28団地を整備するが、田の浦など19団地232戸は3月末までに造成を完了している。

◇生ゴミを発酵処理した液肥を農地肥料として活用する。「バイオマス産業都市構想」で資源循環型の農業を南三陸町は目指す。町内の運送業者からの支援で液肥散布車輛も導入した。

◆気仙沼市唐桑地区でカキ養殖をしている畠山重篤さん(NPO法人森は海の恋人)が植樹活動が評価され、国土緑化推進機構の「みどりの文化賞」を受賞した。

◇南三陸町は27日の行政区長・行政連絡員の合同会議で、初めて仮設住宅の集約方針を示した。福祉仮設(南方9戸)(入谷18戸)を先行し集約を実施する予定。

◇復興事業費の全額は国債でから、被災地自治体負担も数%の大臣発言に、自治体は猛反発。

「春の叙勲」千葉一成氏(82)・旭日双光章、地方自治功労。阿部清氏(80)・瑞宝単光章、消防功労。渡邊榮記氏(79)・瑞宝単光章、消防功労。

◆気仙沼市のカモシカの農作物被害が約2700万円による。拡大を防ぐために駆除隊を発足させた。

◇29日の歌津地区高台への「慰霊碑建立」の入魂式・追悼式が開催され、集まった遺族は慰霊碑に刻まれた家族の名前をさすり涙する姿に、家族の大震災大津波の悲しみは終わっていないかった。